

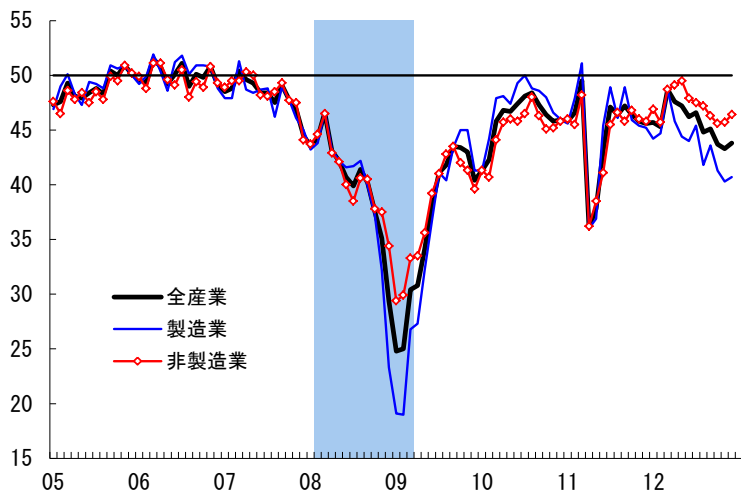
指標名：中小企業の業況(2012年12月)

発表日2012年12月27日(木)

～景況感は依然低水準だが、一部に明るさも～

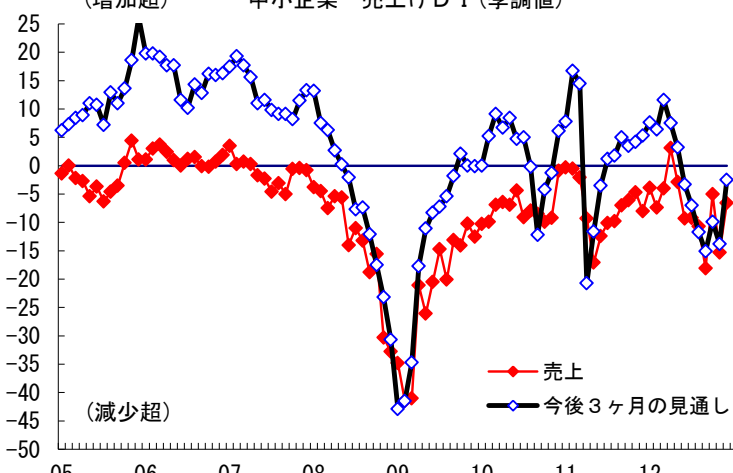
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4525

景況判断指数 (中小企業月次景況観測)



(出所) 商工中金「中小企業月次景況観測」

(増加超) 中小企業 売上げD I (季調値)



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」
(注) D I=(増加-減少)企業割合

○景況判断指数：景況感は依然低水準も、非製造業は比較的底堅い

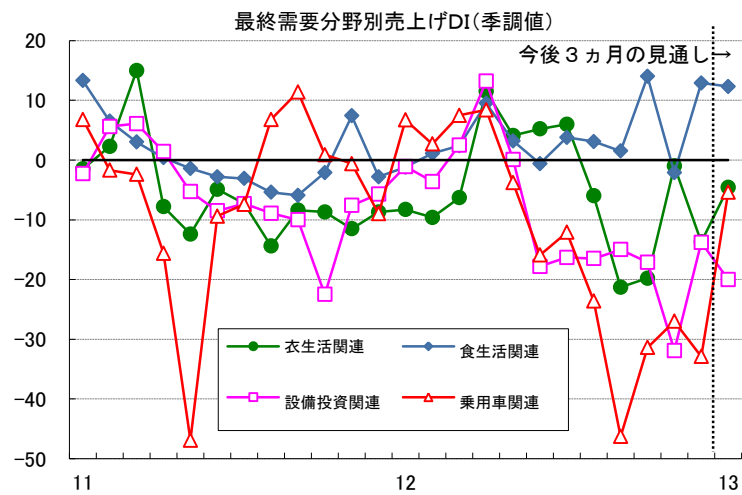
商工中金から公表された12月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：12月上旬)の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で43.8(11月：43.3)と3ヶ月ぶりに上昇したが、上昇幅は小幅であり依然低水準の景況感となった。業種別にみると、製造業は輸出の悪化等を背景に引き続き低下傾向にある一方、非製造業は2ヶ月連続の上昇と比較的底堅い。非製造業は、エコカー補助金終了後の自動車販売の減少等が景況感の下押し要因となっていたが、足元の自動車販売の下げ止まりを背景に景況感の一段の悪化は避けられたようだ。

日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：12月中旬)の売上げD I (季節調整値)は▲6.6(11月：▲15.3)と比較的大きく改善した。売上げD Iはこのところは振れの激しい展開となっているが、均してみれば春頃からの低下に歯止めがかかっている。最終需要分野別にみると、乗用車関連がエコカー補助金の終了等で引き続き低調に推移しているが、足元の自動車販売の下げ止まりや輸出の回復期待等を背景に先行きは大きく改善が見込まれている。設備投資関連が引き続き低調に推移していることが懸念されるものの、5月以降大幅に落ち込んでいた乗用車関連に持ち直しの兆しが窺えることは、国内景気にとって大きなプラス材料と言えよう。

○中小企業の景況感は徐々に回復に向かう見込み

1月の景況判断指数は製造業は38.8(12月実績：40.7)、非製造業は45.4(12月実績：46.4)とともに低下が見込まれている。懸念されていた自動車販売が下げ止まっていることが景況感の下支え要因ではあるものの、輸出の悪化が継続していることが企業マインドを冷やしているようだ。ただし、輸出については海外経済の回復に伴って年明け以降は持ち直しに向かうことが期待される。中小企業の景況感も輸出の持ち直しに伴って、徐々に回復に向かうであろう。一方、米国の財政の崖など輸出の回復の前提となる海外経済には依然不透明感が残ることには注意が必要だ。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」
 (注) DI=(増加-減少)企業割合